

Citation: Walker BF, French SD, Grant W, Green S. Combined chiropractic interventions for low-back pain. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 4. Art. No.: CD005427. DOI: 10.1002/14651858.CD005427.pub2.
CRG名: Cochrane back Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 27 November 2009
Clib issue No.; N/U: 2010 issue 4; New

背景: カイロプラクターは、通例、腰痛(LBP)のある人を治療するために介入を組み合わせたものを用いる。

目的: LBPのある18歳以上の成人において、併用カイロプラクティック介入(すなわち、脊柱操作単独以外の治療の組み合わせ)の疼痛、能力障害、背中関連機能、全改善、患者満足度に対する効果を明らかにする。

検索戦略: Cochrane Back Review Group Trials Register(2009年5月)、CENTRAL(コクラン・ライブラリ 2009年第2号)、MEDLINE(1966年1月から)、EMBASE(1980年1月から)、CINAHL(1982年1月から)、MANTIS(最初から)、Index to Chiropractic Literature(最初から)を2009年5月まで検索した。同定した論文の参考文献も選別し、カイロプラクティック研究者と連絡を取った。

選択基準: 併用カイロプラクティック介入(脊髄操作単独以外)の使用を無治療あるいは他の治療と比較したすべてのランダム化試験。

データ収集と分析: 2人以上のレビューアが研究を選択し、バイアスのリスクを評価し、標準化された形式を用いてデータを抽出した。記述的統合とメタアナリシスの両方を行った。

主な結果: 12件の研究(LBPがある参加者2,887例)を選択した。3件の研究はバイアスのリスクが低かった。選択された研究は、LBPがある人から成る様々なサブ集団において、様々なカイロプラクティック手技を評価した。併用カイロプラクティック介入と無治療を比較した試験は見つからなかった。急性および亜急性LBPに対して、カイロプラクティック介入は、他の治療と比較して、短期と中期の疼痛を改善したが(標準化平均差(SMD)-0.25(95%CI -0.46~-0.04)、および平均差(MD)-0.89(95%CI -1.60~-0.18))、長期疼痛は有意差がなかった(MD -0.46(95%CI -1.18~0.26))。能力障害の短期改善は、カイロプラクティック群において他の治療群よりも大きかった(SMD -0.36(95%CI -0.70~0.02))。しかし、効果は小さく、これらの結果に寄与したすべての研究はバイアスのリスクが高かった。中期および長期の能力障害に差はなかった。併用カイロプラクティック介入は、慢性LBPに対して、またLBP患者の混合集団を包含していた研究に対して、差を示さなかった。

レビューアの結論: 併用カイロプラクティック介入は、急性および亜急性のLBPに対して、短期で疼痛と能力障害、中期で疼痛をわずかに改善した。しかし、LBPがある人において、これらの介入が、他の介入と比較した場合、疼痛や能力障害に対して臨床的に意味のある差を与えることを支持しないしは反論するエビデンスは現在ない。将来の研究が、効果の推定値やこれらの結果に対する我々の信頼を変える可能性は非常に高い。

(監訳 内藤 徹)
翻訳公開日: 2010年11月18日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。